

I. 選んだ本の書誌情報

小野善康『成熟社会の経済学—長期不況をどう克服するか』岩波書店、2012年

II. 目次

第1章 発展途上社会から成熟社会へ

1. お金をめぐる社会の変遷
2. 成熟社会に足りないもの
3. 混乱する経済政策

第2章 財政政策の常識を覆す

1. 乗数効果という幻想
2. 雇用創出と税負担
3. 財政支出の使い道

第3章 金融政策の意義と限界

第4章 成熟社会の危機にどう対応するか

1. 高齢化社会と少子化問題
2. 災害対応
3. 環境・エネルギー政策と市場の創出

第5章 国際化する経済

1. 内需と為替レート
2. 企業の海外移転と産業保護

III. 著者紹介

1951年 東京都生まれ

1973年 東京工業大学工学部社会工学科 卒業

1979年 東京大学大学院経済学研究科博士課程修了 東京大学経済学博士

1979年 武蔵大学経済学部専任講師

2010年 内閣府参与

2016年 大阪大学社会経済研究所特任教授、大阪大学名誉教授

著書『寡占市場構造の理論』東京大学出版会、1980年

『景気と経済政策』岩波新書、1999年

『節約したって不況は終わらない。日本経済に答えはある』ロッキング・オン、2003年

『不況のメカニズム』中央公論社、2007年

ほか

IV. 選定理由

1. 発展途上社会から成熟社会への変化
2. これまでの経済政策の問題点
3. 成熟社会に足りないものとは
4. 成熟社会での雇用創出の意義
5. 成熟社会における増税の効果
6. 成熟社会で行なうべき経済政策とは
7. 成熟社会において三つの重要課題の位置
8. 成熟社会の不況を克服する方法
9. 二つの社会での金融政策効果の違い
10. 国際化した経済の政策分析